

新火災調査教本

第7巻

監修 東京消防庁

公益財団法人 東京防災救急協会

第1編 火災調査書類

第1章 火災調査書類の概念

第1節 火災調査書類の意義	1
第2節 火災調査書類の処理類型	1
第3節 火災調査書類の作成基準	3
第4節 火災調査書類作成上の留意事項	4
【1】 簡潔・明瞭な文章	4
【2】 誤字・脱字等がない文章	4
【3】 各様式の作成目的を理解した作成	4
【4】 パソコンでの書類作成	5

第2章 火災調査書

第1節 火災調査書の性格と作成者	6
【1】 性格	6
【2】 作成者	6
第2節 火災調査書の様式と作成要領	6

第3章 出火原因判定書

第1節 出火原因判定書の性格と出火原因の調査	13
【1】 性格	13
【2】 出火原因の調査	13
(1) 出火原因の究明手順	13
(2) 出火箇所の判定	14
(3) 出火原因の判定	15
(4) 出火した要素の解析手法例	16
第2節 出火原因判定書の作成者	17
第3節 出火原因判定書作成上の留意事項等	18
【1】 判定根拠として採用する情報の条件	18
【2】 判定に至る論理構成	18
【3】 各調書に記載された事実等の扱い	18
(1) 現場（鑑識）見分調書	18
(2) 鑑識実験結果報告書・鑑定書	18
(3) 火災出場時における見分調書	18
(4) 質問調書	19
【4】 各調書に記載された事実等の引用方法	19
【5】 引用事実等の記載項目	19
第4節 出火原因判定書の記載事項	20

【1】 出火建物の判定	20
(1) 出火建物の判定の必要性	20
(2) 出火建物の判定の手順	20
【2】 出火箇所の判定	21
(1) 出火箇所判定の必要性	21
(2) 出火箇所の判定の手順	22
(3) 出火箇所の範囲	22
【3】 出火原因の判定	22
(1) 出火原因の判定の記載方法	22
(2) 出火原因の判定に必要な記載内容	23
(3) 結論の記載	27
第5節 出火原因判定書の様式と作成要領	28
第4章 火災出場時における見分調書	
第1節 火災出場時における見分調書の性格	33
第2節 火災出場時における見分調書の作成者及び作成基準の運用	33
【1】 作成者	33
【2】 作成基準の運用	33
第3節 火災出場時における見分調書記載上の留意事項	33
【1】 記載内容	33
【2】 文章形態	34
【3】 焼損建物の記号表示	34
【4】 見分位置の記載	34
【5】 図面・写真の活用	34
【6】 記載対象の記号化・簡略化	34
第4節 火災出場時における見分調書の記載項目	34
【1】 出場途上における見分状況	35
【2】 現場到着時における見分状況	35
(1) 建物の見分	36
(2) 関係者の見分	36
【3】 消防活動中における見分状況	37
第5節 火災出場時における見分調書の様式と作成要領	39
第5章 現場（鑑識）見分調書	
第1節 現場（鑑識）見分調書の性格	41
【1】 現場見分調書	41
【2】 鑑識見分調書	41
第2節 現場（鑑識）見分調書の作成者	41
【1】 現場見分調書	41

【2】	鑑識見分調書	42
第3節	現場（鑑識）見分調書記載上の留意事項	42
【1】	見分事実の客観的な記載	42
【2】	文章の形態	43
【3】	使用禁止の用語	43
【4】	立会人の供述の扱い	43
(1)	立会人の説明と調査員が見分した事実との区分	43
(2)	立会人説明のうち現場見分調書に記載する内容	44
【5】	発掘・復元段階での見分の記載	44
【6】	見分位置と見分対象の明示	45
【7】	簡明かつ系統的な記載	45
【8】	文章と写真の構成	45
【9】	写真	47
【10】	図面	53
【11】	写真及び図面の扱い	54
第4節	現場（鑑識）見分調書の記載項目	57
【1】	書類形式上必要な事項	57
【2】	現場見分結果	58
(1)	現場の位置及び付近の状況	58
(2)	現場の模様	59
(3)	焼損状況	59
第5節	現場（鑑識）見分調書の様式と作成要領	63
第6章 質問調書		
第1節	質問調書の作成目的	71
第2節	質問調書の作成者及び作成基準の運用	71
【1】	作成者	71
【2】	作成基準の運用	71
第3節	質問調書作成上の留意事項	72
【1】	調書作成の手続き	72
(1)	録取終了後の確認	72
(2)	少年等に対する質問	73
(3)	パソコンで作成した書類	73
【2】	質問の方法	73
【3】	質問の実施場所	74
(1)	火災調査現場で作成する場合	74
(2)	消防署所で作成する場合	74
【4】	質問の実施時期及び時分	74

【5】 供述の記録	74
【6】 質問の都度変わる供述	75
【7】 特異火災と質問調書	75
【8】 その他	75
第4節 質問調書の作成対象者	76
【1】 出火行為者	76
【2】 火元関係者	76
【3】 発見・通報・初期消火者	78
【4】 その他の関係者	78
第5節 現場質問調書	79
【1】 作成時の留意事項	79
【2】 作成の具体例	79
第6節 質問調書の様式と作成要領	79
第7章 延焼状況等調書	
第1節 延焼状況等調書の性格と作成者	85
【1】 性格	85
【2】 作成者	85
第2節 延焼状況等調書記載上の留意事項	85
【1】 記載内容	85
【2】 図面・写真の活用	85
第3節 延焼状況等調書の記載要領	85
第8章 出火建物・避難状況等調書	
第1節 出火建物・避難状況等調書の性格と作成者	89
【1】 性格	89
【2】 作成者	89
第2節 出火建物・避難状況等調書記載上の留意事項	89
【1】 記載内容	89
【2】 図面・写真の活用	89
第3節 出火建物・避難状況等調書の記載要領	89
第9章 危険物施設等調書	
第1節 危険物施設等調書の性格と作成者	96
【1】 性格	96
【2】 作成者	96
第2節 危険物施設等調書記載上の留意事項	96
【1】 記載内容	96
【2】 図面・写真の活用	96
第3節 危険物施設等調書の記載要領	96

作 例

1 全焼火災	99
2 ぼや（鑑識）火災	137
3 天ぷら油火災	151
4 車両火災	166
5 その他火災（2号処理）	181

第2編 火災調査のための写真撮影マニュアル

第1章 はじめに

はじめに	189
------	-----

第2章 資器材についての基本的な知識

第1節 カメラの分類	190
【1】 デジタル一眼レフカメラ	190
【2】 コンパクトデジタルカメラ	190
第2節 レンズの選択	191
【1】 単焦点レンズ	191
【2】 ズームレンズ	191
【3】 マクロレンズ	191
【4】 注意事項	191
第3節 基本的な撮影方法	192
【1】 ピント合わせ	192
【2】 オートモードでの撮影	192
(1) オートフォーカス（AF）機能	192
(2) フォーカスロック（AFロック）機構	192
(3) 撮影方法	193
(4) 撮影時の注意点	195
【3】 マニュアルモードでの撮影	196
(1) マニュアルフォーカス（MF）	196
(2) シャッター速度と絞り値	196
(3) シャッター優先での撮影方法	197
(4) 絞り優先での撮影方法	198
(5) マニュアル露出での撮影方法	200
(6) ISO感度	200

第3章 火災現場での写真撮影

第1節 写真の必要性と認識	201
【1】 写真の必要性と認識	201
【2】 事前の検討事項	201
第2節 撮影資器材の事前準備	201
【1】 事前準備	201
【2】 各種撮影資器材と使用上の留意事項	201
(1) カメラ	201
(2) 交換レンズ	202
(3) ストロボ	203
(4) 記録媒体	204
(5) 電池	205
(6) 三脚	205
(7) 脚立	206
(8) 携帯型照明用ライト	206
(9) 防水用品	207
(10) 取扱説明書	207
第3節 火災出場途上時の写真撮影	207
【1】 見分要領と写真撮影	207
【2】 火災出場途上時の行動	208
第4節 現場到着時の写真撮影	208
【1】 見分事項	208
【2】 火災種別ごとの撮影例	209
(1) 延焼中の建物火災・昼間	209
(2) 延焼中の建物火災・夜間	211
(3) 鎮圧火災・建物	212
(4) 車両火災	215
(5) その他火災	217
第5節 消防活動時における写真撮影	218
【1】 延焼状況の把握	218
【2】 見分要領と写真撮影	218
第6節 鎮圧・鎮火直後の写真撮影	220
【1】 破壊・移動前の写真撮影	220
【2】 見分要領と写真撮影	220
第7節 火災調査時における写真撮影	220
【1】 火災調査時における写真撮影の基本	220
【2】 火災現場への出向	221

【3】	関係者からの情報収集	221
【4】	警察機関との連携・協力	221
第8節	火災調査現場での準備と手順	221
【1】	火災調査現場全体の確認	221
【2】	出火建物の確認	221
【3】	出火範囲の確認	222
【4】	現場での資器材準備	222
第9節	火災調査現場での撮影上の留意事項	223
【1】	ピンボケ（被写体ボケ）の防止	223
【2】	手ぶれの防止	223
【3】	直射日光・影などへの配慮	224
【4】	不必要な物の排除	225
【5】	被写体の明確化	226
【6】	異なる方向からの撮影の重要性	226
【7】	同一の方向からの撮影の重要性	227
【8】	被写体位置の明確化	228
【9】	出火前の状況を忠実に撮影	229
【10】	標識、標示、スケールの活用	230
【11】	被写界深度を考えた撮影	230
【12】	水洗い後の撮影	231
【13】	機敏な撮影	232
【14】	日付は入れない	232
【15】	常にレンズを清掃する	232
【16】	雨天・降雪時の撮影	233
【17】	大空間での撮影	234
【18】	広角レンズ使用時のケラレ・歪みに注意する	234
第10節	火災調査現場での写真撮影	235
【1】	火災調査現場全体の撮影	235
【2】	類焼建物の撮影	238
【3】	出火建物の撮影	238
【4】	出火建物内部の撮影	239
【5】	出火室の撮影	240
【6】	復元中の撮影	241
【7】	復元後の撮影	243
【8】	発火源の撮影	252
【9】	接写・拡大撮影	253
【10】	火災による死者の撮影	254

第 11 節	鑑識写真の撮影	256
【1】	鑑識技術・知識の必要性	256
【2】	鑑識写真撮影のポイント	256
【3】	電気機器の鑑識写真撮影	257
【4】	燃焼機器の鑑識写真撮影	263
【5】	車両の鑑識写真撮影	265
第 12 節	事例別撮影のポイント	269
【1】	放火により出火した火災	269
【2】	たばこにより出火した火災	271
【3】	ガステーブルにより出火した火災	276
第 4 章 安全管理		
第 1 節	写真撮影と事故防止	279
【1】	火災調査現場での事故防止	279
【2】	資器材の損傷防止	279
第 2 節	盗難防止	280
資器材の盗難防止		280
第 5 章 火災調査書への写真の使い方		
【1】	デジタル画像はパソコン内での写真合成は行わない	281
【2】	火災出場時における現場見分調書の写真添付例	281
【3】	現場見分調書の写真添付例	283
第 6 章 その他		
用語集		288